

## ■第1章

### 1 校内研修に必要な内容（表1）

項目	No.	内容
A 地域連携の経緯や意義について	A-①	・法令や答申等の流れの確認、先進事例の紹介 等 例：「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）ってなあに？」（☞P8）
	A-②	・地域との連携・協働の必要性 等 例：「なぜ今、地域との連携・協働が必要なの？」（☞P10）
B 連携活動の体制づくりについて	B	・地域との連携・協働マニュアルの確認 等 例：「地域との連携・協働の手順を確認しよう」（☞P12）
C 地域連携に関する活動づくりについて	C-①	・地域情報の収集、地域理解促進 等 例：「フィールドワークに出かけよう」（☞P16）
	C-②	・地域の方との顔の見える関係づくり 等 例：「もっと教えて 地域のこと」（☞P18）
	C-③	・活動の見直し、点検・改善 等 例：「地域学校協働活動を見直そう」（☞P20）

### 2 校内研修の企画と運営

#### (1) 研修のねらいの設定

自校の取組状況、児童・生徒の実態、教職員のニーズ等を把握して、研修のねらいを明確に設定します。研修のねらいに照らし合わせて研修内容（表1）や方法を検討します。

#### (2) 研修方法の選択・組み合わせ

研修のねらいや教職員のニーズに合わせて、

- 伝達型（講話・講義等）
- 参加・体験型（ワークショップ・フィールドワーク等）
- 課題研究型（事例研究等）

を、適切に選択したり組み合わせたりします。

教職員と保護者や地域住民と一緒に研修できる機会を設けるとより効果的です。



#### (3) その他

企画・運営や講師情報等のご相談はこちら

- 上都賀教育事務所 ふれあい学習課（0289-62-7167）
- 鹿沼市教育委員会事務局 生涯学習課（0289-63-3498）
- 日光市教育委員会事務局 生涯学習課（0288-21-5182）
- 栃木県総合教育センター 生涯学習部（028-665-7206）

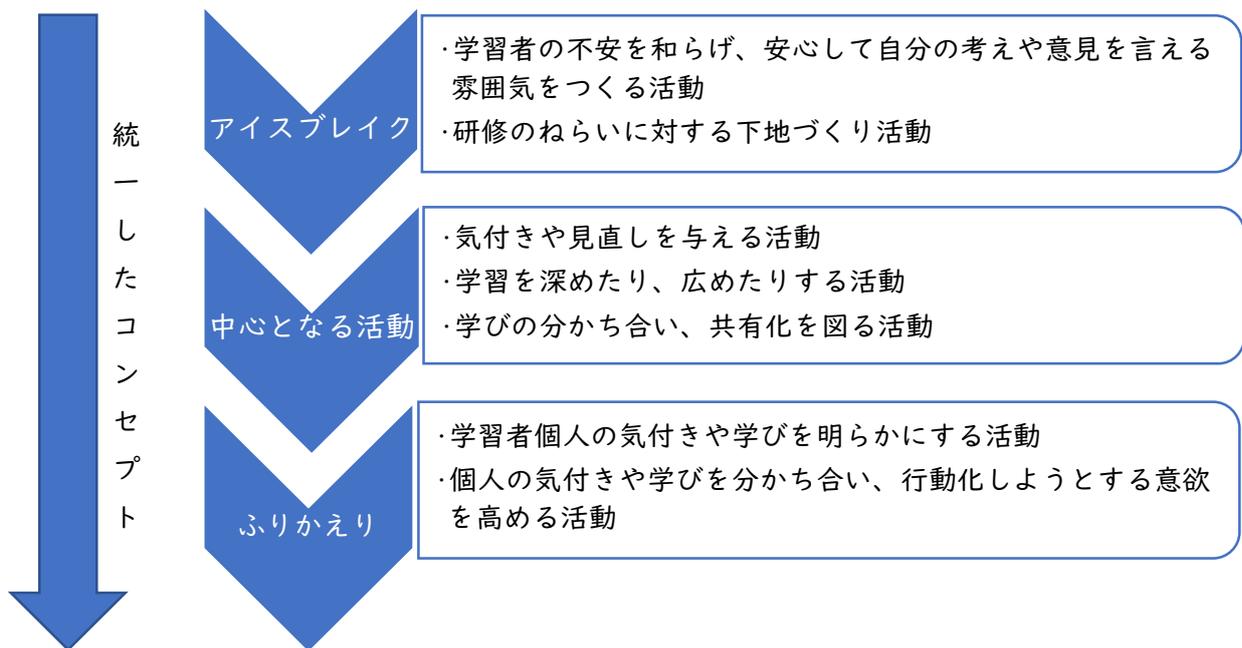
### 3 ワークショップのすすめ

#### (1) ワークショップとは

「教える側」と「教えられる側」の関係で学ぶ研修ではなく、学習者が積極的に他者の意見や発想から、**気づき** **学び合い** 最後に自らの **ふりかえり** をするという研修の過程での学びを大切にします。

問題解決を図るとともに、知識や技能（スキル）、態度を身に付けられるという特徴があり、学習者が主体的に参加することで、自ら納得し意欲が喚起され態度や行動につながる手法です。

#### (2) ワークショップの流れ



#### 【実践例】 「みんなで学ぼう 地域とともにある学校づくり」(75分)

○ねらい：全教職員の地域連携に関する理解を深め、連携活動への意識を高める

○参加者：全教職員、学校運営協議会委員 ○会場：図書室（アイランド型 4人×8グループ）

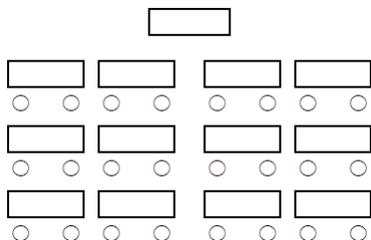
○ファシリテーター及び講師：上都賀教育事務所ふれあい学習課

流れ	内容
アイスブレイク 【5分】	○「イニシャル自己紹介」（👉P23） ・自分の名前を使った自己紹介をすることにより、和やかな雰囲気の中で教職員と学校運営協議会員の顔合わせを行う。
ワーク1：協議 【15分】	○「本音で語り合おう 地域連携」 ・これまでの地域と連携・協働した取組について話し合う。
ワーク2：講話 【20分】	○「それでもなぜ、地域との連携・協働が必要なのか？」 ・法令や答申等の講話や他校の事例を聞く。
ワーク3：協議 【25分】	○「新たな視点で、地域と連携・協働できそうなことは？」 ・グループで話し合い、全体で共有する。
ふりかえり 【10分】	○「やってみよう 地域連携」 ・自分の立場でできることを考え、グループ内で発表し合う。

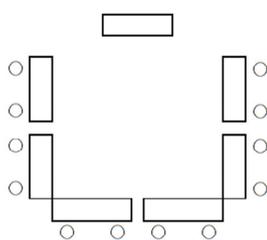
### (3) 心地よい会場づくり

学びやすい環境づくりのため、会場レイアウトを工夫します。

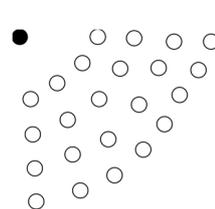
○スクール型（例：講話）



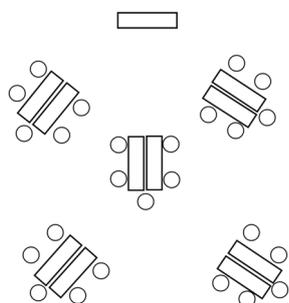
○コの字型（例：少人数）



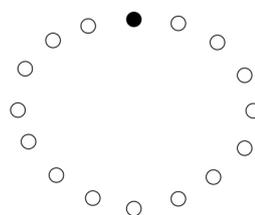
○扇形（例：コンサート）



○アイランド型（例：グループ作業）



○サークル型（例：全体の活動）



### (4) ファシリテーターの役割

ワークショップを進行する人を「ファシリテーター」と呼びます。日本語に訳すと「容易にすること」「促進」の意味があり、「教える」ことが中心の指導者「インストラクター」とは異なる役割があります。開放的な学習の雰囲気作りを心がけ、学習者の主体性を尊重し、特定の方向に意見を導かないように、学習者の学びを促します。

校内研修では、各校の社会教育主事有資格教職員や地域連携教員が「ファシリテーター」を務めるとスムーズです。

#### <雰囲気作りのポイント>

- 笑顔や明るい声かけ
- 適切な言葉遣い
- 自由な発言機会の保障
- 受容的・共感的な態度
- 学習者とファシリテーターの対等な関係

#### <準備物の例>

- ワークシート、配付資料
- タイマー、ベル
- ポインター
- パソコン、プロジェクター
- ペン、付せん紙、模造紙
- その他ワークショップに必要なもの

## 4 校内研修の評価

研修実施後のアンケートや年度末等に実施する学校評価に位置づけて研修の評価を行いましょ。研修内容、方法、日時の設定、運営の在り方、研修の成果や課題等、項目を工夫して実施ましょ。得られた結果を次の計画に反映させることで校内研修の充実・改善につながります。